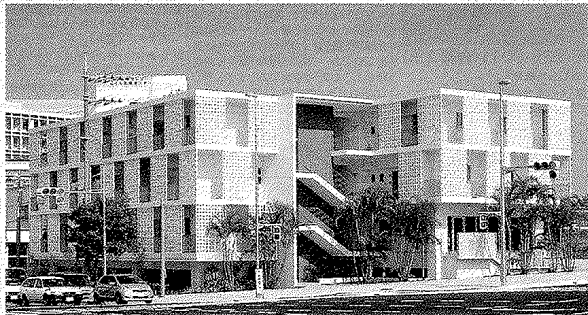


第9回沖縄建築賞

(社)沖縄県建築士会

住宅建築大賞

「Casa Villa真地」



伊良波 朝義氏 (有)義空間設計工房

那覇市と南風原町の市町村境の国道と県道が交差する角地に位置する。建物の配置や表情づくり、またプライベート対策について検討を行い、2棟の板状型住棟の1棟を回転させ、バルコニー面(表)を道路側へ、廊下側(裏)を中廊下とすることで、どの方向からも表に見えることを意識して計画した。また、道路と建物間の隙間を積極的に緑化し、まちと建築のゆるやかなつなが

りも提案した。

外壁には、耐久性と通風性に優れるコンクリート花ブロックを使用。かすりのような涼感のあるスクリーンとし、建物の表情を和らげ、景観にも配慮した。また、バルコニーの手すりも、一部スクリーン化することで、半戸外のアマハジ空間をつくり出し、休憩や干し場として使いやすく、設備機器の目隠しも兼ねた。

まちなにも優しく
集合住宅に大賞

大賞に伊良波氏、奨励賞に伊東・福村氏

第9回沖縄建築賞(主催(社)沖縄県建築士会)が発表され、大賞に伊良波朝義氏(有)義空間設計工房が設計した「Casa Villa真地」が選出された。今年応募の総数は42点で、大賞のほか、奨励賞2点と人気投票特別賞3点を選定した。

建築奨励賞には、伊東まこと氏(ティンアーキテクト)の「城間の家」と、福村俊治氏(有)チームドリームの「西原幸地の家」が選ばれた。

今回新設された人気投票特別賞には、小林志弘氏(プラン建築設計事務所)の「森の家」が選出された。設計事務所の「気候 風土 沖縄らしさを考えた普通の家」、亀崎義仁氏と下地鉄郎氏(クロトン建築設計事務所)の「森の家」、根路銘安史氏(アトリエ・ネロ)の「ガレージハウスに暮らす」の3点となった。

中本清澄審査委員長(県建築士会会長)は、「快適な住居の設計には、夏場の日射遮蔽や通風換気など、沖縄の気候・風土に適した工夫や省エネへの配慮が欠かせません。その観点からも、素材の可能性を広げる提案性の高い住宅が選出された」と評価した。

奨励賞 「西原幸地の家」

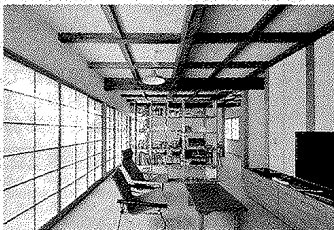


福村俊治氏 (有)チームドリーム

西原幸地は、緑に囲まれた盆地で、かつての地割りや畜所跡や馬場跡、刻時森や幸地グスクなどが残る由緒ある集落。建物は、この集落の沖縄らしい景観づくりと新しい沖縄の生活様式に合う住宅を目指した。

1階が鉄筋コンクリート(RC)造、2階は木造の混構造。正方形のシンプルな構造、外観とした。1階は寝室や書斎などプライベートスペースとし、RC造で防音、耐震性などの安全性を確保。2階はリビングダイニングや茶の間などパブリックスペースに。木造の美しさと涼しさ、開放性を併せ持つ空間が生まれた。

奨励賞 「城間の家」



伊東まこと氏 ティンアーキテクト

1階が仕事場、2階を居住空間とした職住一体の住まい。平面は特定の役割を持たせずオープンにし、暮らしの変化に柔軟に対応できるよう計画した。構造には木造を採用。木材の種類や耐力壁の配置、床組みの剛性、柱・梁のバランス等に特に配慮し、大開口と広い空間を持つ木造住宅を実現した。

西側のベランダは、緑化ができる環境を準備したほか、雨水を溜める池も設置。重力式により放水、庭への水まきにも利用できるように工夫。さらに、連続した開口には和紙を挟み込んだアクリル板の障子を配し、柔らかな自然光に包まれるようにしている。

人気投票特別賞

気候・風土 沖縄らしさを
考えた「普通の家」



小林志弘氏
プラン建築設計事務所

60歳前後の夫婦と子ども2人の家です。設計では外の開放感を取り込み、沖縄の伝統的な間取りをどう生かすかがテーマでした。デッキテラスをリビング横に配置して開放感を得て、伝統的な間取りを参考にしながら台所や寝室は敷地の特性や家族の生活を考慮して配置しました。つくり込まず緩やかにつながる、そんな居心地いい「ゆるさ」に配慮した住まいです。

「森の家」

亀崎義仁、下地鉄郎氏
クロトン建築設計事務所



古民家に憧れを抱く家主と、数十年後に理想の古民家に育て上げていくという想いで新築しました。建具、家具、照明などは、設計と工事期間の間に家族旅行を兼ね、購入された味わいのあるものです。この住まいでは、森の安寧の秩序を新鮮に感じられます。

「ガレージハウスに暮らす」

根路銘 安史氏 アトリエ・ネロ



お父さんは大の車好きで、読書好きのお母さん、やんちゃな子どもたちが伸び伸びできる家を目指しました。家族の顔がいつも見えて趣味も一緒に楽しめるよう、田の字形のコンパクトな間取りに。ガレージと玄関を一体にして土間のようにし、内外を分けずに自由に行き来ができる気軽な場所になっています。